１１月２８日
聖書　ローマ人への手紙４章９～１７節
世界を相続する幸い

4:9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、

4:10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。

4:11 彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、

4:12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。

4:13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。

4:14 もし律法による者が相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。

4:15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。

4:16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。

4:17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。

パウロは旧約聖書を代表する二人の人物、
アブラハムとダビデの例を挙げて、
働きのない者であっても
行いのない者であっても
イエス様を信じる信仰によって、
救われる、義とされる、神の子とされる
幸せを証言しています。

パウロは罪赦される幸い、幸せを
詩篇から歌っています。
「幸いなことよ。不法を赦され、
罪をおおわれた人たち。
幸いなことよ。主が罪を認めない人。」

９節からはそれでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、
4:10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。

義とされた者の幸い、
罪赦された者の「幸い」にテーマが進展します。
アブラハム、ダビデは罪赦され、信仰によって義とされて
どんな幸いを手にしたのでしょうか。
罪赦される人生にはどんな幸いが伴うのでしょか。
私たちはクリスチャンになって、信仰によって罪赦される人生になって、どんな幸いが与えられるのでしょうか。

１３節において、
この幸い、すなわち世界の相続人になると言う約束は
信仰による義によってであった、と書かれています。
信仰によって義とされた者は世界の相続者になる約束が与えられています。
クリスチャンになることは、罪赦される、心の平安や心の世界だけでなく、世界の相続人になるという大きな恵みがあります。

それでは世界の相続人となるということはどんなことなのでしょうか。

信仰によって義とされた人々、例えば
放蕩息子、ザアカイさんなど、救われてどのような人生になって
行ったでしょうか。変えられていったのでしょうか。

放蕩息子の救い。
親のお金を湯水のごとく使い、放蕩三昧に明け暮れ、
遊女と遊ぶために親のお金を散財し、豚飼いの仕事をする
ひもじさと惨めさの中で父の愛、父の信仰を思い起こして、
くいあいらためて、故郷を目指して帰路につきました。

悔い改めた息子を父は無条件で赦し、しもべの一人ではなく、履き物、上着、指輪をはめさせて子として迎えて受け入れました。
信じた私たちは神様の子とされて受け入れられます。
この子とされる子との幸いをパウロは４章９節で証ししています。
子として受け入れられることを、相続人、世界の相続人と表現しています。

ガラテヤ4:6
そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。
4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。

信仰によって義とされた者には
父なる神の赦し、愛を受け、豊かな交わりに入れられる。
礼拝を通して
祈りを通して
賛美を通して
みことばを通してアバ父と呼ぶ豊かな交わり。
父は宴会を準備して息子を迎え、交わりました。
肉の糧だけでなく、日々みことばの糧を十分に振る舞って
相続人として受け入れられている。

今週の聖句に取り上げました。マタイ５章の山上の説教。
心の貧しい者は幸いです。
天の御国はその人のものだからです。
悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。
柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。

自分の罪を認める者、信じる者を心の貧しい者、悲しむ者、柔和な者と表現し、彼らは罪赦され、義とされ、幸いな者とされ、御国、この地を相続すると約束しています。

働きがない者と言われて信じ続けたアブラハムは
心の貧しい者、悲しむ者、柔和な者であり、
地を嗣ぐ約束を与えられ幸いな生涯を送っています。
放蕩息子も初めは高ぶった人でしたが
主に取り扱われて、貧しさの中で
自分の罪を認める心の貧しい者、自分の罪を悲しむ者、
へりくだって柔和になって、父の元に返り、
子として受け入れられ相続人とされる幸いな人になりました。

私たちも神の子とされ、世界の相続人とされています。

ローマ８章

8:16 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。

8:17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。

神の相続人、キリストとの共同相続人
キリストのみわざに参与出来る幸い。
キリストは救いの御業をなしてくださり、今も
その御業が広がることを御霊を通して
全世界の教会を通して行われています。
私たちは神の子とされ、キリストの御業の
お手伝いが出来る幸いを生きています。

救われて教会に連なる者とされ、キリストの御心を実現するために用いられる幸いを生きていきましょう。

放蕩息子は家に帰り、父に赦され、子として迎えられました。
その後の放蕩息子の人生はどんな人生を送ったでしょうか。
父との交わりをよろこび、以前はいやいやの労働がよろこびの労働と変えられていったと思います。

主の御心がこの地で実現するように、私を用いてくださいと祈りましょう。
キリストの御心がこの地でなるために、神様は私たちに賜物、タレント、を与えてくださっています。
その賜物が生かされて、友の救いのために、みんなが恵まれて教会生活が出来るために、私たちが用いられるなら、それが幸いな人生であります。

祈ることを通して、小さな献げものを通して、証しや伝道を通して、主の御業に参加出来ることは何という幸いなことでしょう。
この幸いな道を日々歩みましょう。

祈り